

平成31年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（言語科学） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>言語科学の試験問題は、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、言語学、国語学、日本語学の6分野から成っており、どれかひとつの分野の問題を選択して解答することになっている。いずれも学部教育で習得すべき基礎知識と大学院での研究に必要な能力を問う内容であり、専門用語および設問形式による基本概念の解説と応用、各分野の資料に基づく専門的な解釈を織り交ぜて出題している。</p>

平成31年度  
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）  
（専門試験） 言語科学 全10枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 10 枚、解答用紙 2 枚を配付する。

解答における注意

専門試験 言語科学 の問題は下記の6つの出題範囲からなっており、この順番に並んでいます。この中から志望する分野に応じて、ひとつの出題範囲だけを選択して解答してください。複数の出題範囲にまたがって解答してはいけません。問題の形式は出題範囲によって異なることがありますので、各出題範囲の指示に従って解答してください。

出題範囲

英語学

ドイツ語学・ゲルマン語学

フランス語学・ロマンス語学

言語学

国語学

日本語学

[英語学]

英語学の問題は「設問 I」と「設問 II」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に解答して下さい。

設問 I（英語学）

1. 次の用語を英語の具体例を挙げながら日本語または英語で簡潔に説明しなさい。

- (1) grammaticalization
- (2) stress-timed rhythm
- (3) doublet
- (4) acronym
- (5) phrase structure rules

2. フィルモアが提唱した frame という概念が言語研究においてどのように有効かを英語の具体例を挙げながら日本語または英語で論じなさい。

3. 自分が研究テーマとする予定の具体的な言語現象（音声、語彙、文法など）について、それがいかに興味深いものであるかを 300 語程度の英語で説明しなさい。

設問 II（英語学）

次の英文を読み、下の問に答えなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

（出典：Nicholas Evans and Stephen C. Levinson (2009) “The myth of language universals: Language diversity and its importance for cognitive science.” *Behavioral and Brain Sciences* 32: 429-430）

問1 下線部(1)を日本語に訳しなさい。

問2 下線部(2)の問いに対する著者の考えを日本語で200字以内に要約しなさい。

[ドイツ語学・ゲルマン語学]

ドイツ語学・ゲルマン語学の問題は「設問 I」と「設問 II」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に解答してください。

設問 I（ドイツ語学・ゲルマン語学）

次の問 1～5 からどれかひとつを選択して解答しなさい。

問 1 次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：Hartmann, Stefan. *Deutsche Sprachgeschichte*. Tübingen. Francke. 2018: 149-150.

問 2 次のオランダ語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Groot Nieuws Bijbel*. Nederlands Bijbelgenootschap. Haarlem/Katholieke Bijbelstichting. 's-Hertogenbosch. 1999: 97

問 3 次のスウェーデン語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Bibeln*. Svenska Bibelsällskapet. Stockholm. 1982: 175

問 4 次のデンマーク語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Bibelen*. Det Danske Bibelselskab. København. 1998: 1143

問 5 次のノルウェー語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：*Bibelen*. Bibelselskapets Forlag. Oslo. 1987: 117

設問 II（ドイツ語学・ゲルマン語学）

次の問 1 と問 2 に日本語で解答しなさい。

問 1 「設問 I」の問 1～5 の文章からどれかひとつを選んで、冒頭の 2 つの文を国際音声字母 (IPA) を用いて表記しなさい。必要に応じて、適宜、説明を加えてもかまいません。

問 2 ドイツ語の方言区分について説明しなさい。

[ フランス語学・ロマンス語学 ]

フランス語学・ロマンス語学の問題は「設問Ⅰ」と「設問Ⅱ」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に解答してください。

設問Ⅰ（フランス語学・ロマンス語学）

以下の専門分野に関する問題1～3より1題を選択し、問題番号を明記の上解答しなさい。

1. 以下のフランス語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 Jean-Louis Chiss et al., 2013, *Introduction à la linguistique française*, Hachette, Paris, p.124.

2. 以下のスペイン語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 George Yule, 2007, *El lenguaje*, Ediciones Akal, Madrid, pp.118-119.

3. 以下のイタリア語の文章を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 George Yule, 2008, *Introduzione alla linguistica*, il Mulino, Bologna, pp.127-128.

設問Ⅱ（フランス語学・ロマンス語学）

フランス語、スペイン語、イタリア語のいずれかの言語について、その統語的特徴を、対象とする言語で作文して説明しなさい。なお、説明にあたっては、具体的な例を提示すること。

[言語学]

言語学の問題は「設問I」と「設問II」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に日本語で解答して下さい。

設問I [言語学]

問1 次のユト語(Ute)の能動文・受動文(1)~(4)と日本語の能動文・受動文(5)~(7)を見て、それぞれの態の特質について論じなさい。(なお、(1)~(4)は、Givón, T(2001) *Syntax volume II*, Johns Benjamins, p.130 からの引用を含む)

\* (1)~(4)の例文とグロスは、著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：Givón, Talmy, *Syntax volume II*, Johns Benjamins, 2001:130

- |     |              |               |          |
|-----|--------------|---------------|----------|
| (1) | 「男は山羊を殺した」   |               |          |
| (2) | 「山羊が殺された」    |               |          |
| (3) | 「男たちは山羊を殺した」 |               |          |
| (4) | 「山羊が殺された」    |               |          |
| (5) | otoko-ga     | pan-wo        | tabe-ta  |
|     | man-NOM      | bread-ACC     | eat-PAST |
| (6) | pan-ga       | tabe-rare-ta  |          |
|     | bread-NOM    | eat-PASS-PAST |          |
| (7) | pan-wo       | tabe-rare-ta  |          |
|     | bread-ACC    | eat-PASS-PAST |          |

ACC: accusative / NOM: nominative / OBJ: object / PASS: passive / PAST: past (tense) / PL: plural / REM: remote (aspect) / SUBJ: subject /

問2 ある言語においてxという音とyという音が音素Zの異音であると認定する場合、どのような条件を満たす必要があるかについて説明しなさい。



設問II [言語学]

以下の用語・トピックのなかから4つ選び、説明しなさい。

- a. 補充法(suppletion)
- b. 脱クリオール化(decreolization)
- c. 推意(implicature)と表意(explicature)
- d. 舌尖(apex)と舌端(lamina)
- e. 範列関係(paradigmatic relation)と連辞関係(syntagmatic relation)
- f. 中和(neutralization)
- g. 袋小路文(garden-path sentence)
- h. フランツ・ボップ(Franz Bopp)
- i. 放出音(ejective)
- j. 抑制子音(depressing consonant)

[国語学]

設問 次は釘貫亨『近世仮名遣い論の研究』（名古屋大学出版会、2007年）の一節である。これを読んで後の問いに答えなさい。

\*著作権に配慮して、図版の転載を省略します。下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。出典：釘貫亨『近世仮名遣い論の研究』（名古屋大学出版会、2007年）10ページ。

- 1 冒頭に「いろは歌から五十音図へ。契沖の決断は、以後の日本古典学の相貌を一変させた。」とあるが、契沖以前は「仮名遣い」をどのように論じてきたのか、述べなさい。
- 2 第二段落の最初に「五十音図による古代音声の復元の際の懸案がアヤワ三行の発音の規定である。」とあるが、契沖とそれ以後のアヤワ三行の発音の規定はどのようになされたのか、知るところを述べなさい。
- 3 釘貫亨の近世仮名遣い研究の意義や特色はどのような点にあるか、述べなさい。

〔日本語学〕

日本語学の問題は「設問I」と「設問II」からなっています。各設問の指示に従って、両方の設問に日本語で解答して下さい。

設問I〔日本語学〕

問1 日本語における倚辞(clitic)について論じなさい。

問2 日本語において「二重主語構文(double-subject construction)」を立てる考え方について論じなさい。

設問II〔日本語学〕

以下の用語・トピックのなかから4つ選び、説明しなさい。

- a. フィラー(filler)
- b. 前鼻音化(prenasalization)
- c. 否定上昇(Neg-raising)
- d. マルチ・モダリティ(multi-modality)
- e. 共鳴(resonance)
- f. 音韻的フット(phonological foot)
- g. 分裂型形容詞(split adjectives)
- h. オッカムの剃刀 (Occam's razor)
- i. 移動動詞(motion verb)
- j. 二重語(doublet)